

内閣官廳
9.4.18

勅授

立案昭和年月日
決裁昭和年月日

丙
昭和七年七月十六日
第一二八五

爵位課長

宗義

内事務官

元遞信院技師木村榮二郎外六名特旨
叙位ノ件

昭和七年七月十五日
八月十五日
三十一

官内省

四號紙

19

裏面白紙



元遞信院技師木村榮二郎外六
名特旨叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年七月十三日

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎

内

閣

七十五日付

裏面白紙

人閣第一九一號

案起

昭和二十年七月 日

決定

昭和 年 月 日

施行

昭和 年 月 日

裁可

昭和 年 月 日

施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣



内閣書記官長



内閣書記





元遞信院技師木村榮二郎外六
名特旨叙位一件

辭令案

例文

内閣

裏面白紙

從四位 木村榮二郎

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位 木村榮二郎

敘正四位

内閣

特旨

叙正四位

依願免本官
職滿十年以上
大正十五年八月四日

元邇信院技師從四位 木村榮二郎

三

邇信省

内閣 勅諭 九七

農商省

敘從四位 依願免本官 昭和二十年六月六日 任官以來在職滿十年以上 元農商技師正五位 田頭宗一

石文武官敘位進階内則第四條ニ依リ謹テ奏ス

昭和二十年七月一日

農商大臣 石 黒 忠 篤



裏面白紙

内閣人請位第一〇〇號

敍正四位昭和廿年七月四日大正十三年五月一日
依願免本官任職滿年以上元軍需技監 從四位 深尾 榮四郎

右文武官敍位進階内則第四條ニ依リ謹テ奏ス

昭和二十年七月五日

軍需大臣 豊田 貞次郎



軍需省

朝鮮總督府 第七〇三

敍正四位 大正十五年八月二日兼任朝鮮總督府京畿道知事 從四位 瀨戶道一

同 大正十二年三月三十日任朝鮮總督府忠清南道知事 同 山木文憲

同 大正十五年四月十九日兼任朝鮮總督府慶尚北道知事 同 平松昌根

右文武官敍位進階 內則 第四條ニ依リ

謹 テ 奏 ス

昭和二十年七月三日

朝鮮總督 阿 部 信 行



朝鮮總督府

東京(奉天) 朝鮮總督府

朝鮮總督府 第七〇二號

敍正四位 昭二十年六月十八日 大正十四年七月十三日兼任朝鮮
依願免官 總督府道警視以來在職在以上 元朝鮮總督府事務官從四位 古市 進

右文武官敍位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年七月三日

朝鮮總督 阿部 信



朝鮮總督府

東京(各回郵)

内閣 密 丁九一

遞秘行第五三九號

昭和二十年七月五日

遞信院總裁塩原時三郎



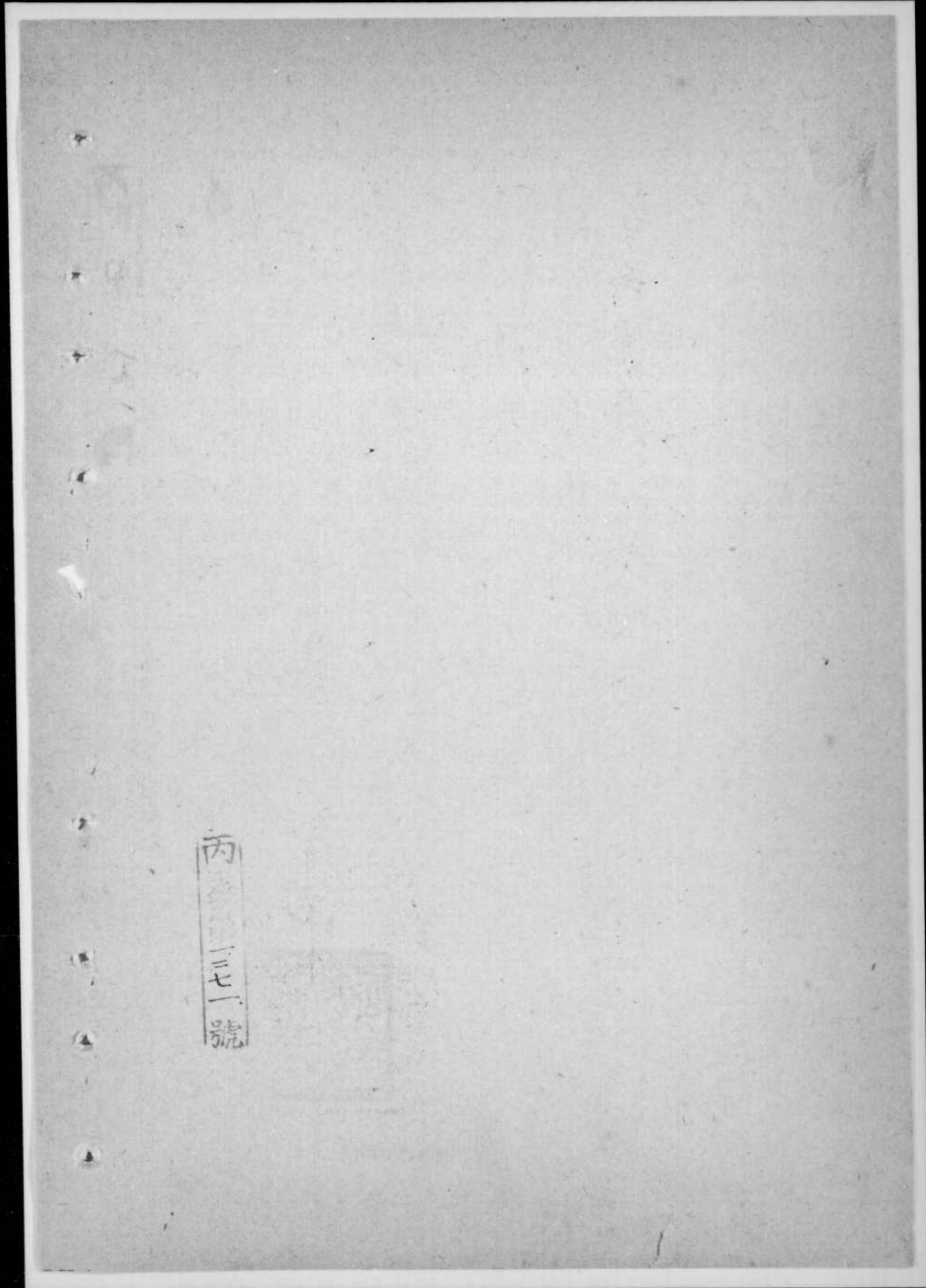
内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎殿

特旨

木村榮二郎特旨叙位之件
別紙一通發令相成度及上申候

遞信省 3

20.7.5 28
仕



印

農秘中第五〇八號

元農商技師正五位田頭宗一特旨敍位ノ件別紙上奏書進達ス

昭和二十年七月一日

農商大臣 石 黒 忠 篤

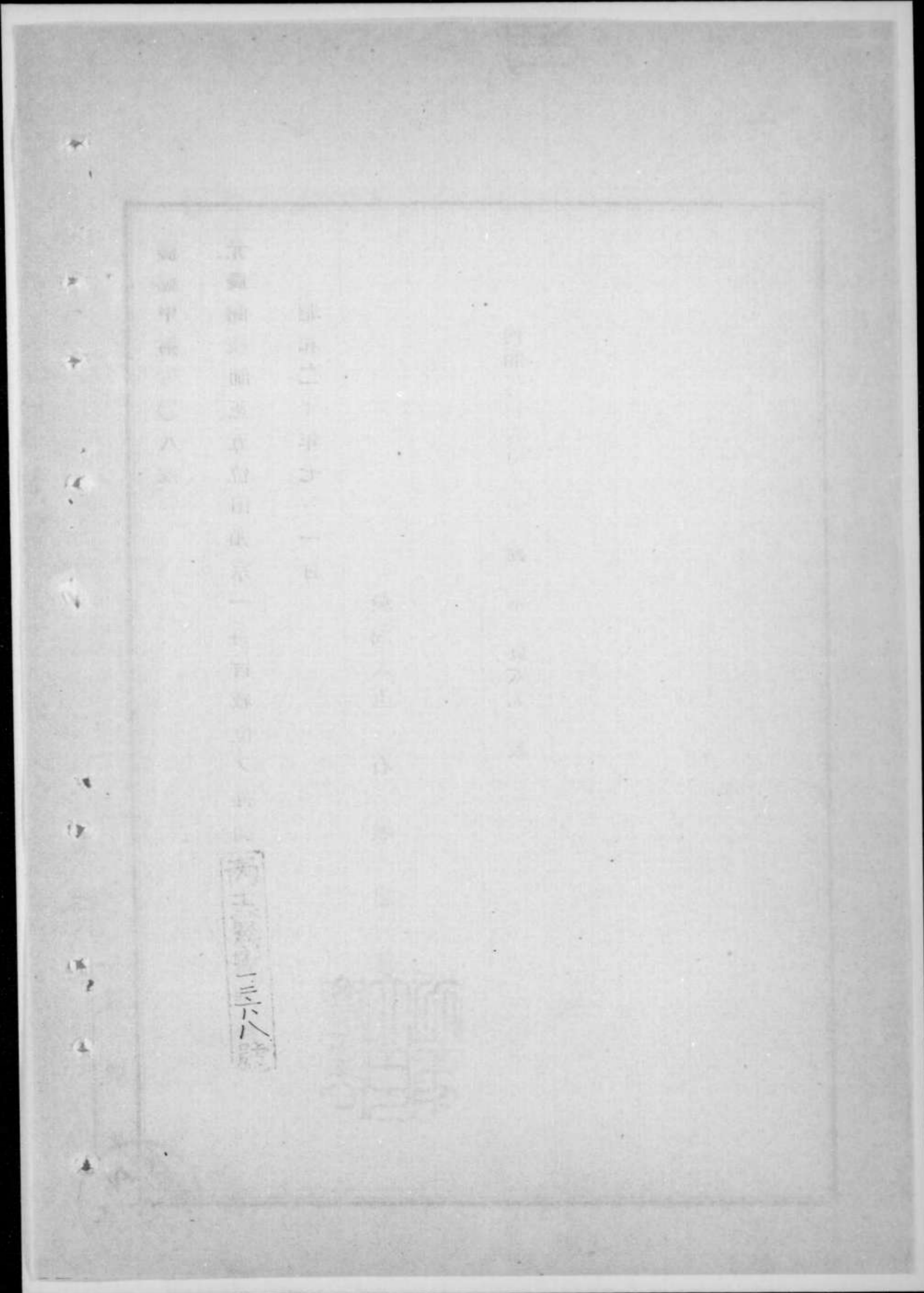


内閣總理大臣 鈴木 貫太郎 敷

農商



29



二〇軍需奏第五一五號

軍需技監深尾榮四郎本年七月四日依願免本官ノ處同人ハ高等官在職
滿十年以上ニ及ヒ勤勞不尠候ニ付此際位一級被進度別紙上奏書進達

ス

昭和二十年七月五日

軍需大臣 豊田 貞次郎



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

軍需



30

内閣總理大臣 櫻井 義 木 曾 大 輔

軍部大臣 齋 田 貞 大 輔

明治二十一年十月五日



閣下平以上ニ及リ候後不稱参ニ付御立一身御親臨御上奏書並御

軍部對策案呈御覽取本平十月五日付御覽取本官ノ御用入ハ萬事官御

二〇軍部對策案第一五號

丙辰年第三十九號



特旨敍位
七月十五日期限

内務大甲第二四七一號

別紙 瀬戸道一 外 貳名 特旨敍位ノ件

上奏書進達ス

昭和二十年七月三日

内務大臣 安倍源



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

内務省 31

207.14
付受

六月十五日
轉旨送

内閣鑄典大引 庚寅編 木實太編

内務大引 癸卯編

明治二十年六月三日

土表書並並

眼

内閣大引 甲寅編 二四六一

内閣鑄典第三二四號



特
位
七月十七日 期程

内務大 臣官房 甲第二四七二號

別紙 古市 進特旨 綴三位ノ件

上奏書進達ス

昭和二十年七月三日

内務大臣 安倍源



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

内務省 32

20.7.4
付受

又月十八日

内閣縣駐大司 使署 備本 實本

内務大司 受 備

昭和二十一年 月 三日

土 奏 書 謹 呈

限 派

丙 奏 書 謹 呈

井

内閣大司 甲 第 二 四 七 号

